



10月20日(日) いよいよ当日！！

テーマ「小児医療から生まれる『気づき』を見据える」

■日時 2019年10月20日(日曜日) 10時～15時30分 終了予定

■プログラム

10:00 開会・実行委員長あいさつ

10:10 演題発表(分科会)

12:00 昼食

13:00 記念講演

「HPVワクチン接種後の神経症状の病態とその治療—心因性疾患との鑑別—」

講師：高嶋 博 先生(鹿児島大学脳神経内科・老年病学講座教授)

15:00 全体会

15:20 閉会あいさつ

■会場 平和と労働センター・全労連会館 2階ホール

東京都文京区湯島 2-4-4 TEL:03-5842-5610



【分科会】

今回、皆さんから19の演題を登録していただきました。発表予定演題をご紹介します。

第1分科会(2階ホール前方)			
1	乳児早期に百日咳に罹患した2症例の検討	大川 聖子 医師	立川相互病院
2	小児救急外来における電話相談	高田 綾野 助産師	埼玉協同病院
3	気になる患者家族を多職種と連携し育児支援を行った事例について	川島 かおる 看護師	前橋協立病院
4	当院における小児血液培養実施状況について	種市 哲吉 医師	東葛病院
5	混合病棟における小児の感染対策について	浅倉 文香 看護師	東葛病院
6	山梨勤労者医療協会の小児リハの現状と課題	伊藤 慎吾 理学療法士	石和共立病院
7	乳幼児の親を対象とした禁煙指導	小宮 あゆみ 保健師	埼玉協同病院
8	乳幼児の間食状況と保護者の間食に対する意識調査	曾根 茉奈美 看護師	甲府共立診療所
9	睡眠衛生指導が有効であった小児不眠症の一例	大河原 信人 医師	下越病院
10	HPVワクチン接種後にDICを呈し失神が生じた1女児例	矢島 昭彦 医師	前橋協立病院
第2分科会(2階ホール後方)			
1	全身診察の重要性を示す2症例	能城 一矢 医師	川崎協同病院
2	血管性紫斑を合併したヒトパルボウイルスB19感染症の2例	齋藤 耕一郎 医師	前橋協立病院
3	1ヵ月健診前のカンファレンス～事例を通して見えてきたもの～	萩原 綾子 看護師	立川相互病院附属子ども診療所
4	小児訪問診療と訪問看護リハビリの協働	小宮山 類 理学療法士	熊谷生協がセンター訪問看護リハビリステーションこころハ
5	集団作業療法の試みと課題	林 英恵 作業療法士	東葛病院
6	子どもの安全を守る転倒転落防止	松本 大輔 看護師	東葛病院
7	小児科外来における家庭看護の実践—家族への啓発と指導に向けた小児科外来リーフレットの作成—	関川 美恵子 看護師	下越病院
8	入院中の乳幼児への医療行為に対する付き添い家族の想い～アンケート調査から得た家族の本音～	広瀬 日那乃 看護師	甲府共立病院
9	救急車で来院した熱性けいれん 複数回発作児の分析	鈴木 隆 医師	高崎中央病院

【記念講演のご案内】



「HPV ワクチン接種後の神経症状の病態とその治療 —心因性疾患との鑑別—」

講師：高嶋 博 先生（鹿児島大学脳神経内科・老年病学講座教授）

子宮頸癌を予防する目的で開発されたヒトパピローマウイルスワクチン（HPV ワクチン）を接種後に、頭痛、羞明、光過敏、音過敏、激的な疼痛、月経異常、様々な睡眠障害、POTS などの低血圧症状が発生し、その後、様々な運動障害、歩行障害、不随意運動、異常感覚や疼痛、てんかんやてんかん様の症状、記憶障害、失語、性格の異常、視覚障害、意識障害など様々な脳機能の低下が出現。長期間学校にも行けずに、地獄の苦しみと表現される症候に陥る患者が数多く存在する。10 万人あたり 50 名以上の患者の発生が疑われている。

本症は、我々の調査やこれまでの研究で本質的には、病初期は視床下部を中心とした症候や small fiber の障害、その後、散在性の自己免疫性脳炎としての幅の広い中枢神経症状が出現すると考えられる。しかし、症候が多彩でこれまでヒステリー（身体表現性障害、身体症状症）の症候と言われてきた症状を併せ持つことから、病院では心の病、または疼痛に伴う心因反応として捉えられることが多く、適切な医師に治療を受けられない状況が実際には起こっている。世界中に同様の患者がおり、ほぼ類似の症状を呈しているが、世界でも心因性疾患とされていることが問題となっている。

そのような中で、我々は、神経学的に多くの患者を診療する機会を得、その検査所見や病態を客観的に評価した。その結果、これまで得られた知見を総合して本症が免疫性疾患（免疫性脳炎と small fiber の末梢神経障害）である知見や HPV ワクチンが原因と考える理由を提示するとともに、なぜ心因性疾患にされてしまうのかについてのメカニズムを考察する。

現在、実際に HPV ワクチンが止まっている現状では、当院においても飛び跳ねるような不随意運動、また羞明でサングラスをして疼痛と歩行障害に悩まされる女子高生の新たな発生は止まっている。しかし以前に HPV ワクチンを接種して 6 年を経ても大きな障害がある方々の遠方からの新規の当院への来院は続いており、患者がいなくなった訳ではない。

加えて、HPV を原因とする子宮頸癌を防ぐことの重要性に異論はないが、普通に考えるとワクチンを打って心因性疾患になるわけ無いのであるから、ワクチン推進の立場の研究者も免疫学的機序にも目を向けるべきであり、心因性機序を主張続ける限りは副反応への対応が全く準備できないので、このままでは HPV ワクチンの未来は閉ざされるかもしれない。治療の実際について報告する。

【当日までのお願い】

- ①演題をお申し込みいただいた方で、パワーポイントデータをまだ未提出の方は、下記事務局まで早めのご提出をお願いします。データが送れない場合等、事前に事務局までご一報ください。
- ②参加費（一人 5,000 円（昼食代込））につきまして、振り込みがまだの方は、ぜひご対応をお願い致します（振込先は第 3 報をご参照ください）。ご不明な点等は下記事務局までご連絡ください。

<お問い合わせ・事務局>

群馬民医連事務局：澤田（TEL：027-234-8505／E-Mail：syouni2019@gunma-min.jp）まで